

地質調査所 創立90周年を迎えて



地質調査所長 小林 勇

地質調査所長 小林 勇

い地質調査船が 昭和47年度から2カ年で建造されることになり 詳細設計に入った。調査船は 昭和49年度から外洋に出て地質調査を行なう予定である。

地震予知に関する研究についても 昭和41年度から関連各省庁との共同研究を進めている。また昭和48年度からは 先の UMP (Upper Mantle Project) に引続く国際地球内部開発研究 GDP (Geodynamics Project) の国内計画のうち「火山帯の地下構造の爆破地震による解明」の一部を実施することになっている。

地質調査所として 今後充実発展させるべき研究分野としては

- 1) 海洋地質 鉱物資源に関する基礎的研究
- 2) 深部鉱物資源の探査開発の基礎となる調査研究
- 3) 国土の開発 保全 防災の基礎となる調査研究
- 4) 物理探査技術に関する研究
- 5) 地殻深部およびマントル上部における物質に関する実験研究
- 6) 国際協同研究および技術協力

などが重要なものといえよう。

地質調査所は他の国立の研究機関とともに 近く筑波研究学園都市に移転することになっている。現在の溝ノ口 河田町の庁舎は手狭まで 十分な研究の行なわれなかった傾向があるが この筑波移転を期に 上記の今後発展させるべき研究分野の仕事が 十分に行なえるような施設や設備を完備すべく 決意を新たにす次第である。

地質調査所の使命は 地質に関する総合研究機関として地質・地下資源に関する調査研究 技術の開発 資料の編さん整備 を行なっており これらを通じて 科学技術の進歩 国土の保全開発など社会の発展に寄与し 国際的にも貢献している。

1882 (明治15) 年に 地質調査所が創立されて以来 今日で90年を経過した。この間引続きわが国の地質および地下資源の研究業務を行なってきた。第2次大戦後においてとくに 地質学における新しい概念 調査技法が次々に開発されてきたので これらの概念 技法を駆使しつつ 業務を推進し 地球科学分野 地下資源開発 その他応用地質部門に対して大きな貢献をはたしてきた。

通商産業省は 昭和45年度から 巨大科学技術開発の1つである海洋開発に本格的に取組むこととなり 地質調査所においても 昭和42年度より行なわれている「海底地質調査技術の研究」を拡大して 海洋資源開発技術に関する研究の一環として 4テーマの特別研究を実施しており 海洋地質科学の大きな発展のためにその成果が期待されている。

この目的のために地質調査所は 海洋地質部の新設に努力し その一部として昭和47年7月から 海洋地質課が発足した。また海洋地質調査には欠くことのできな